

2023年3月期 決算説明会資料

2023年5月26日

目次

1. 2023年3月期 決算概況

2. 今後の見通し

3. 中期経営計画2026

1. 2023年3月期 決算概況

- 2023年3月期 決算ハイライト
- 品目別売上高構成
- 品目別売上高増減
- 地域別売上高構成
- 地域別売上高増減
- 営業利益の増減要因
- セグメント別 売上高 – 所在地別 –

2023年3月期 決算ハイライト

■ 売上高

電子部品等の全世界的な入手難により、減産を余儀なくされているが、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動の正常化が進んだこと、アメリカ等の金利政策による円安などにより、過去最高となる売上を達成。

陸上業務用無線通信機器：前期比26.4%の増収

全世界的な危機管理意識の高まりに加え、他社の供給停滞による機会を捉えて拡販が進み、海外市場で増収。

アマチュア用無線通信機器：前期比6.1%の減収

電子部品等原材料入手難による減産の影響を大きく受けたことで、一昨年から続く旺盛な需要に対応できず減収。

海上用無線通信機器：前期比27.4%の増収

欧米地域でレジャー用途需要が活発化したこと、他社の供給停滞による機会を捉えて拡販が進み増収。

付属品その他：前期比30.7%の増収

第1四半期に国内で航空用無線通信機器の大型入札案件を納入したことにより増収。

2023年3月期 決算ハイライト

■ 営業利益

電子部品等原材料の高騰・円安による海外拠点のコスト増等の影響はあるものの、売上で前年同期を大きく上回ったことにより増益。

■ 経常利益

為替差益が発生（前年同期比で対米ドルでは20.4%、対ユーロでは7.3%の円安水準で推移）し増益。

2023年3月期 決算ハイライト



売上: **34,173** (百万円)
(前年同期比: +20.9%)



営業利益: **2,850** (百万円)
(前年同期比: +169.3%)



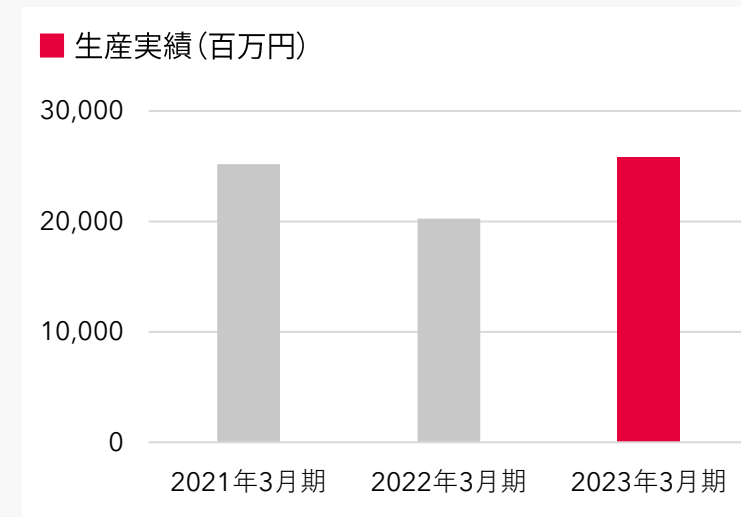
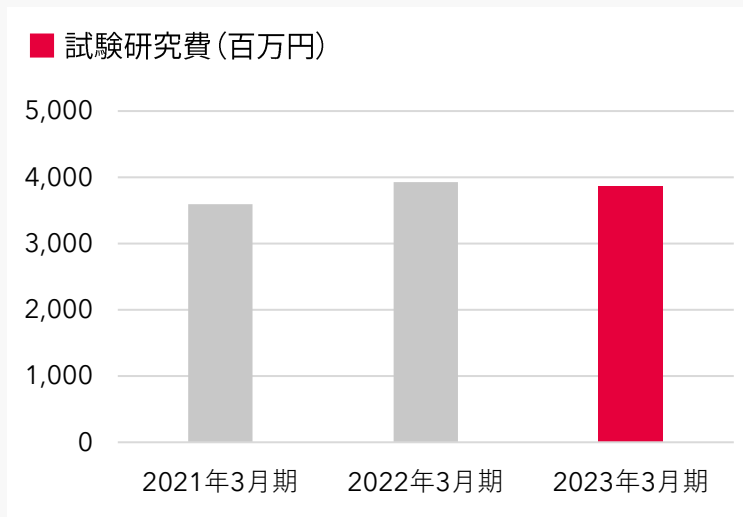
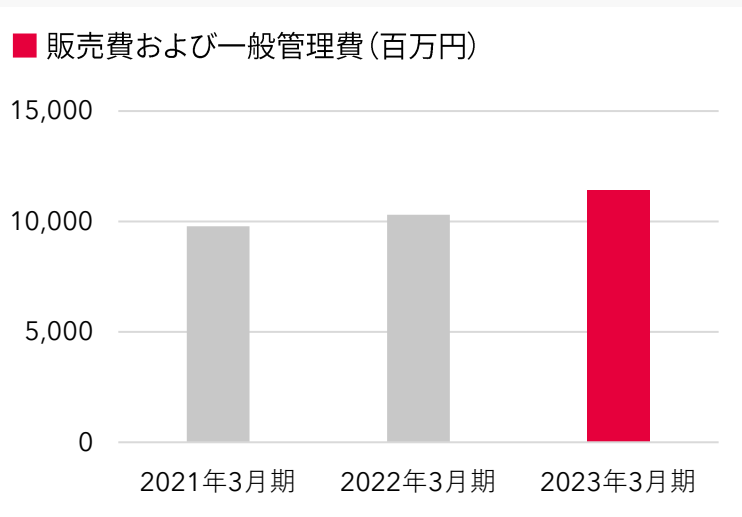
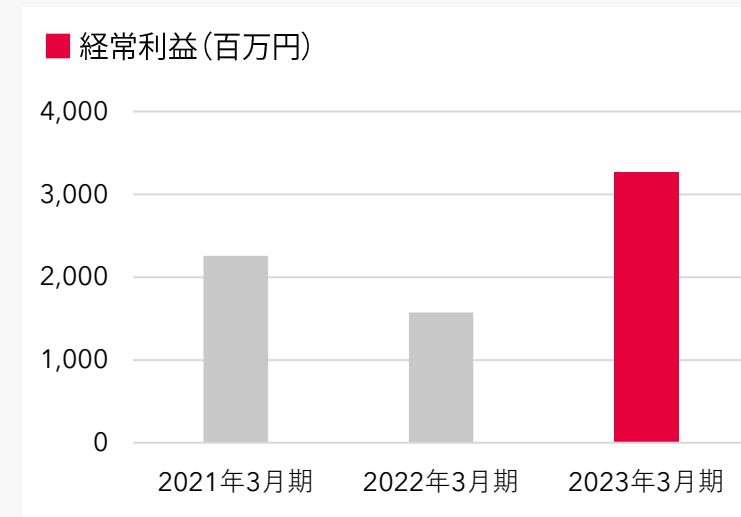
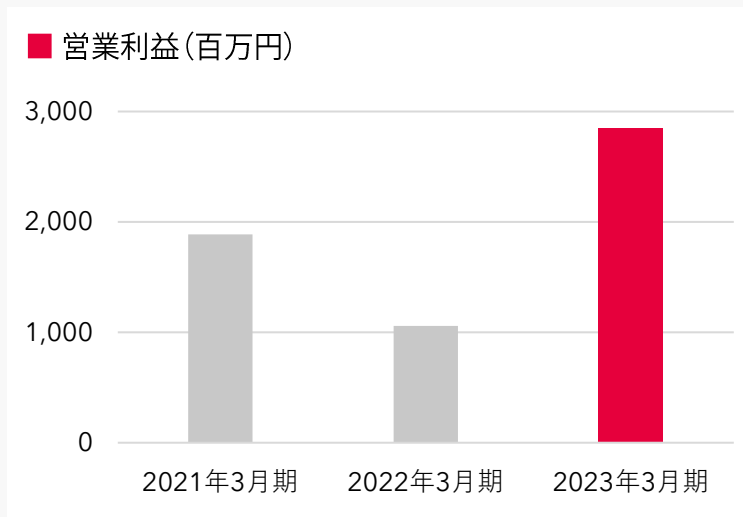
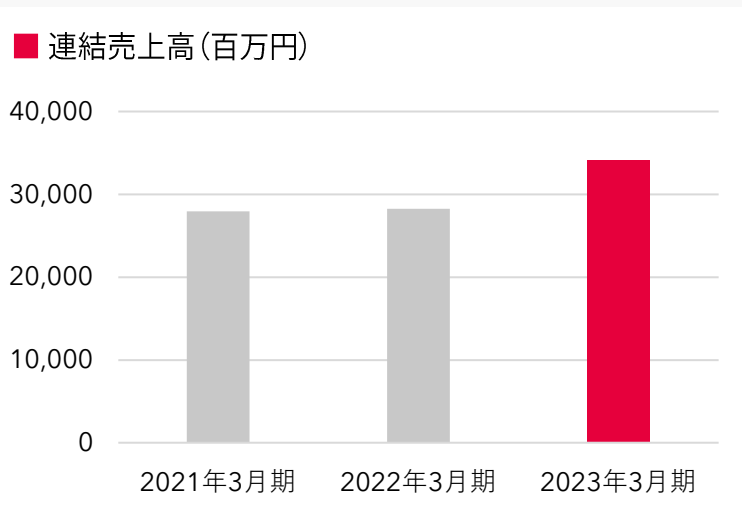
試験研究費: **3,862** (百万円)
(前年同期比: Δ 1.75%)

※2023年3月期新製品: 12機種



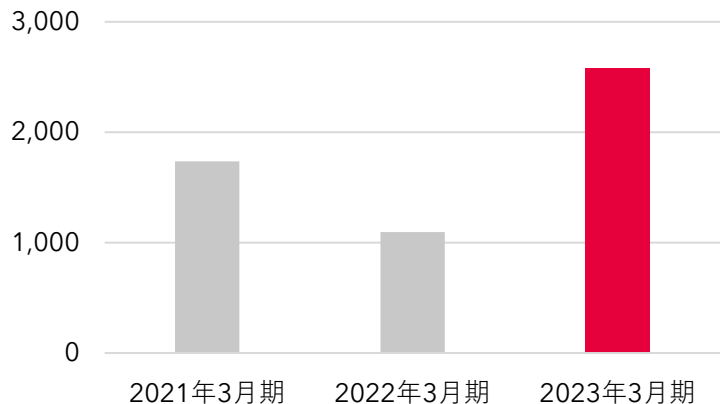
生産実績: **25,875** (百万円)
(前年同期比: +27.6%)
※ロボット生産台数: 203,820 (台)
(前年同期比: +48.5%)

2023年3月期 決算ハイライト

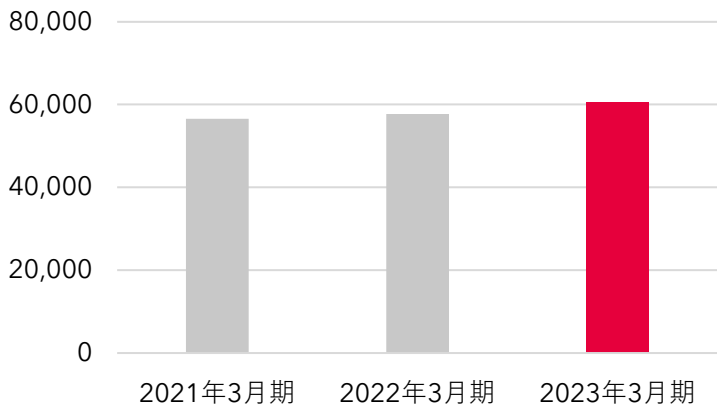


2023年3月期 決算ハイライト

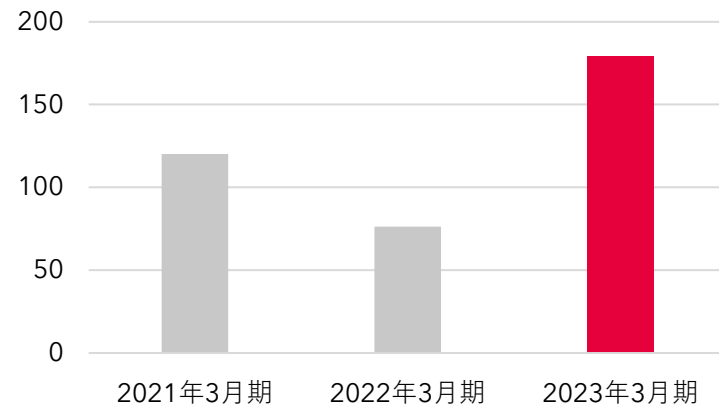
■ 親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)



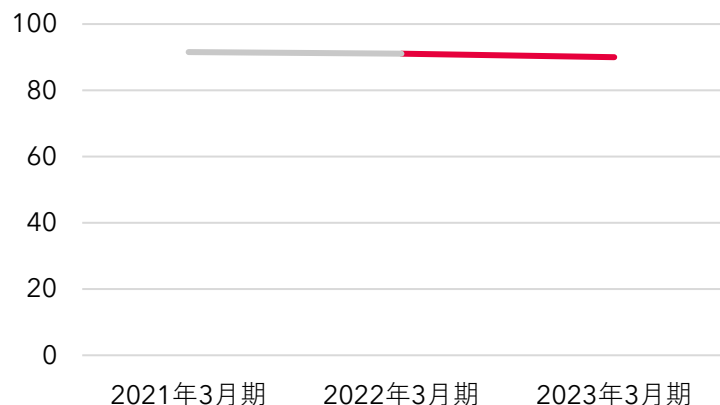
■ 期末純資産額(百万円)



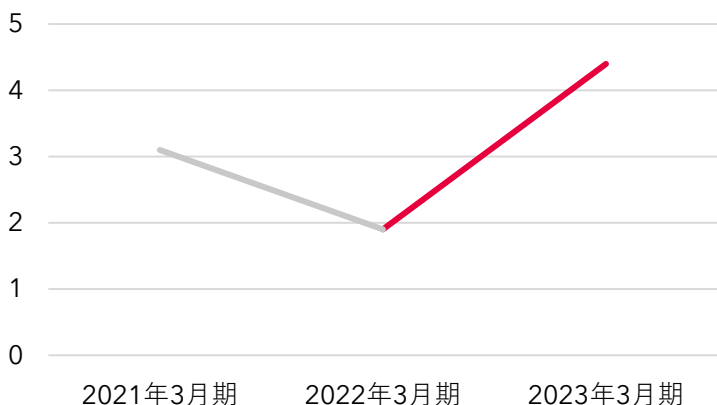
■ 一株当たりの当期純利益(円)



■ 自己資本比率(%)



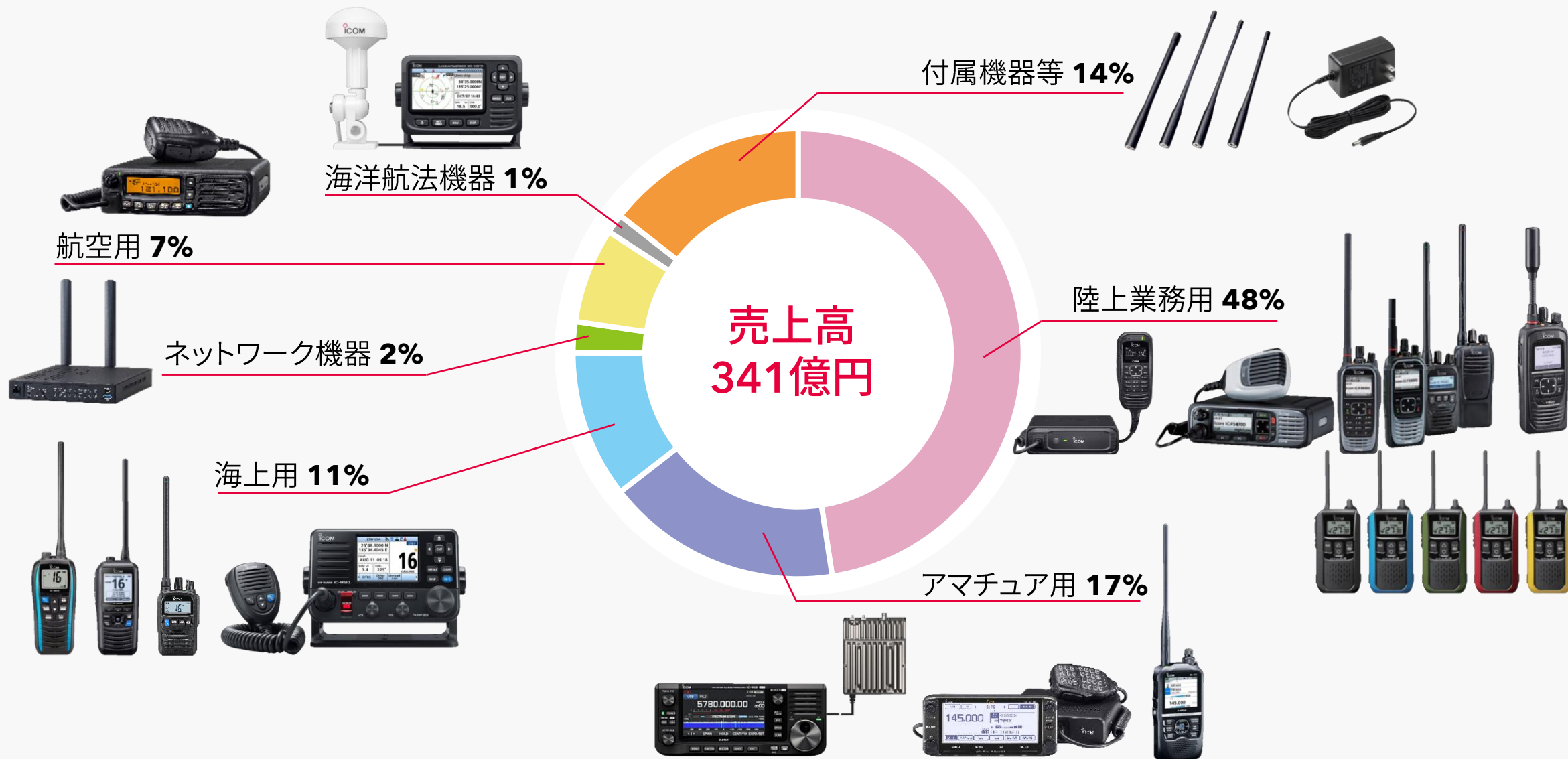
■ 自己資本利益率(ROE) (%)



■ キャッシュ・フロー(百万円)

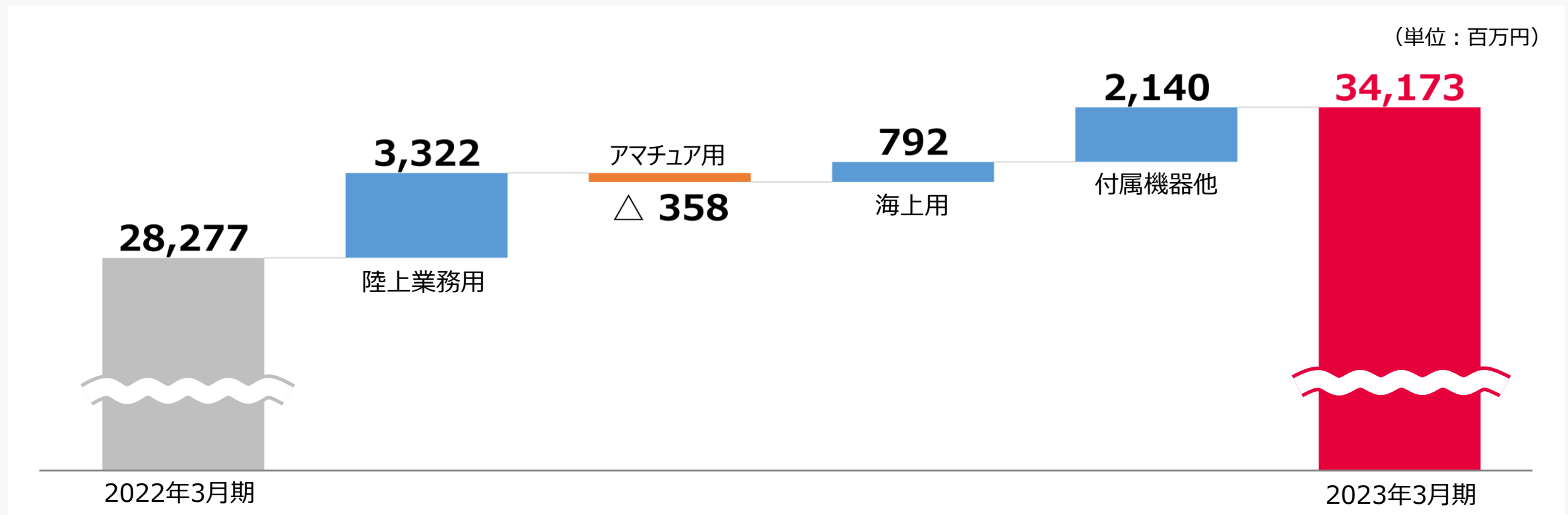
	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	2,971	2,084	3,418
投資活動による キャッシュ・フロー	732	△3,435	2,484
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,941	△717	△718
現金及び現金同等物 の期末残高	24,125	22,489	27,978

品目別売上高構成



品目別売上高増減

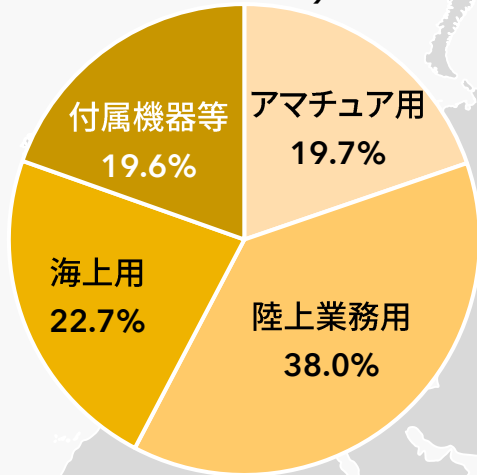
- **陸上業務用無線通信機器**：海外市場で衛星無線が堅調に推移、他社の供給停滞による機会を捉えて拡販が進み増収。
- **アマチュア用無線通信機器**：部品入手難から、欧米地域での旺盛な需要に対応できず前年度に比べ減収。
- **海上用無線通信機器**：レジャー用途需要の高まりに加え、他社の供給停滞による機会を捉えて拡販が進み増収。
- **付属機器他**：第1四半期に、航空用無線通信機器の大型入札案件を納入したことにより増収。



地域別売上高構成

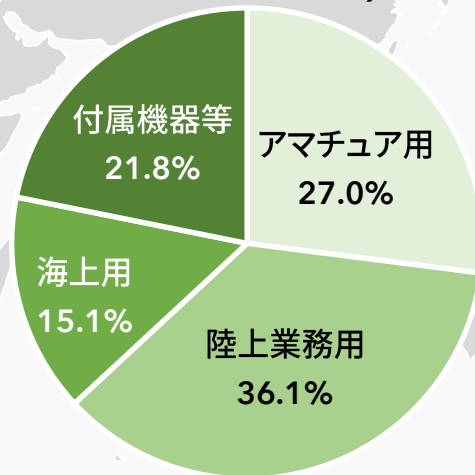
EMEA

売上比率 **16.3%**
(前年同期比：
+24.9%)



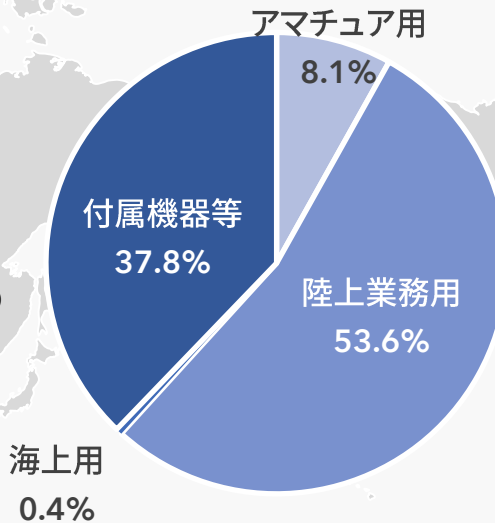
アジア・オセアニア

売上比率 **14.3%**
(前年同期比：
+27.2%)



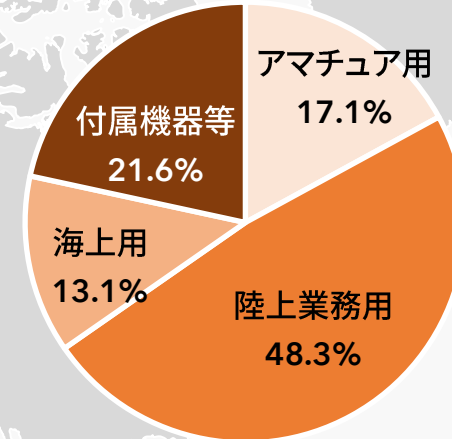
日本国内

売上比率 **33.0%**
(前年同期比：
+8.6%)



北中南米

売上比率 **36.4%**
(前年同期比：
+29.7%)

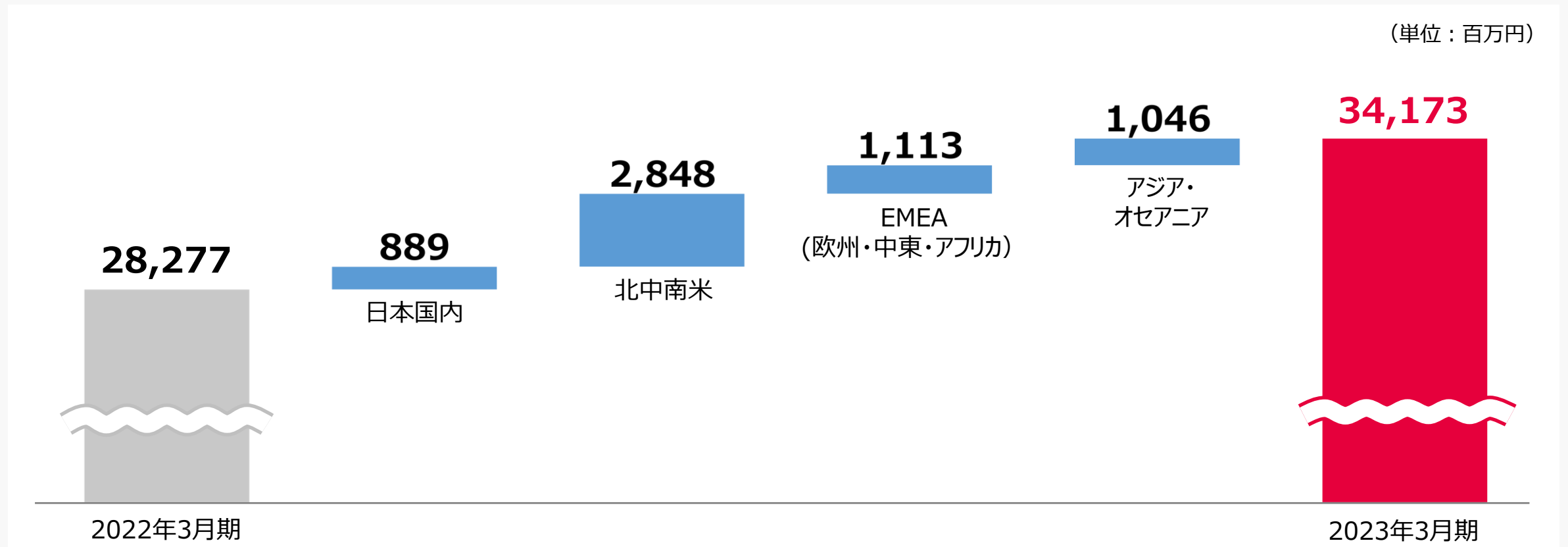


地域別売上高増減

■ **日本市場**：大型入札案件を納品したことによる増収。

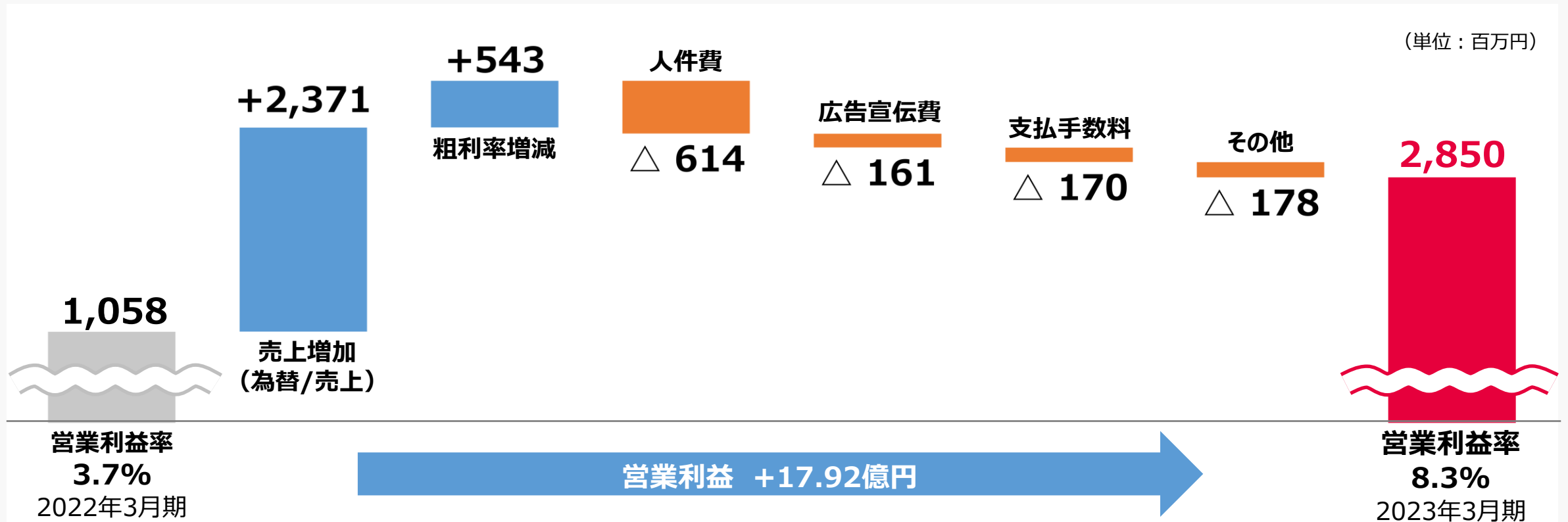
経済活動との両立を目指す施策がとられるようになり市場環境が好転。

■ **海外市場**：経済活動の正常化が進んだことに加え、危機管理意識の高まりもあり、欧米地域をはじめ全地域で増収。



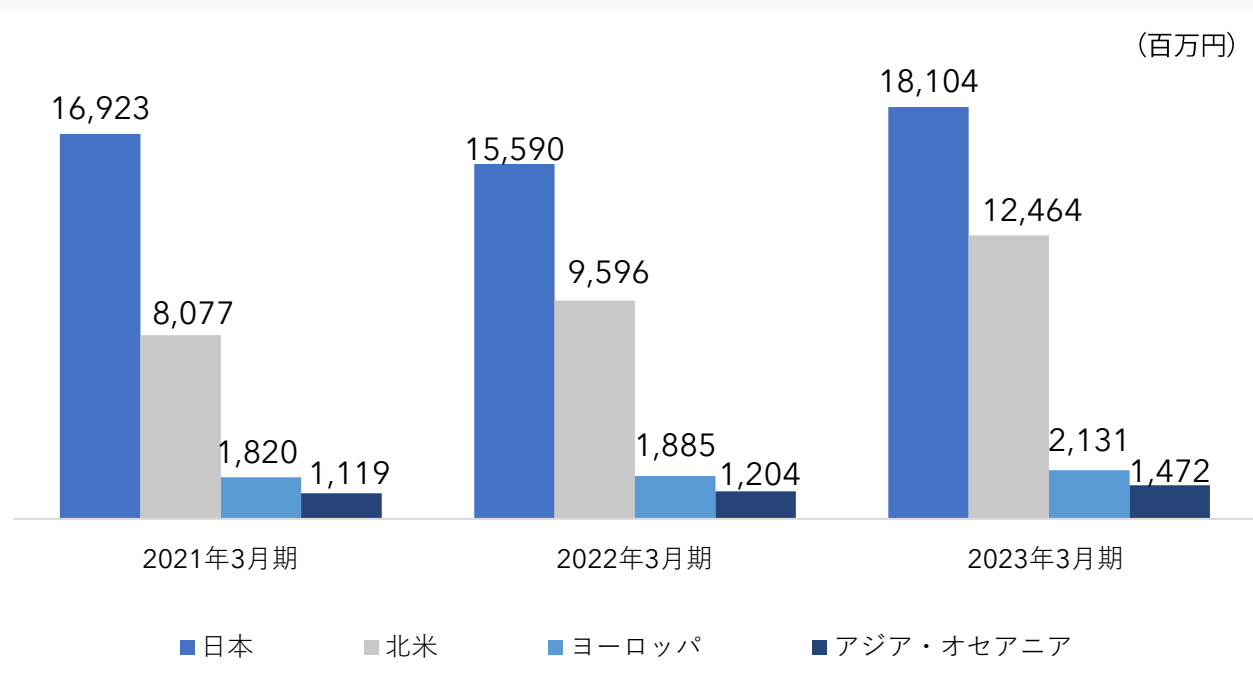
営業利益の増減要因

全世界的な経済活動の正常化が進んだこと、第1四半期に日本で大型案件の納入をしたことにより、売上は大幅に増加。加えて、為替レートが想定レートよりも円安に推移した効果も伴い、売上高としては2008年3月期以来の過去最高となり営業利益も当初予想を上回る実績。ただし、販管費は、為替レートが円安に推移したことによる人件費の増加に加え、展示会等コロナ禍で控えていた営業活動の再開などで増加。



セグメント別 売上高 – 所在地別 –

		2023年3月期		2022年3月期		対前期増減率
		通期 累計	構成比	通期 累計	構成比	
売上高 (百万円)		34,173	100.0%	28,277	100.0%	+20.9%
※セグメント別	日本	18,104	53.0%	15,590	55.1%	+16.1%
	北米	12,464	36.5%	9,596	33.9%	+29.9%
	欧州 (EMEA)	2,131	6.2%	1,885	6.7%	+13.1%
	アジア・オセアニア他	1,472	4.3%	1,204	4.3%	+22.3%



※各セグメントに属する会社

日本	アイコム本社、和歌山アイコム(株) アイコム情報機器(株)
北米	アイコムアメリカ、アイコムカナダ アイコムブラジル、アイコムメキシコ
ヨーロッパ	アイコムヨーロッパ、アイコムスペイン
アジア・オセアニア	アイコムオーストラリア、アイコムアジア 深圳信響通信有限公司

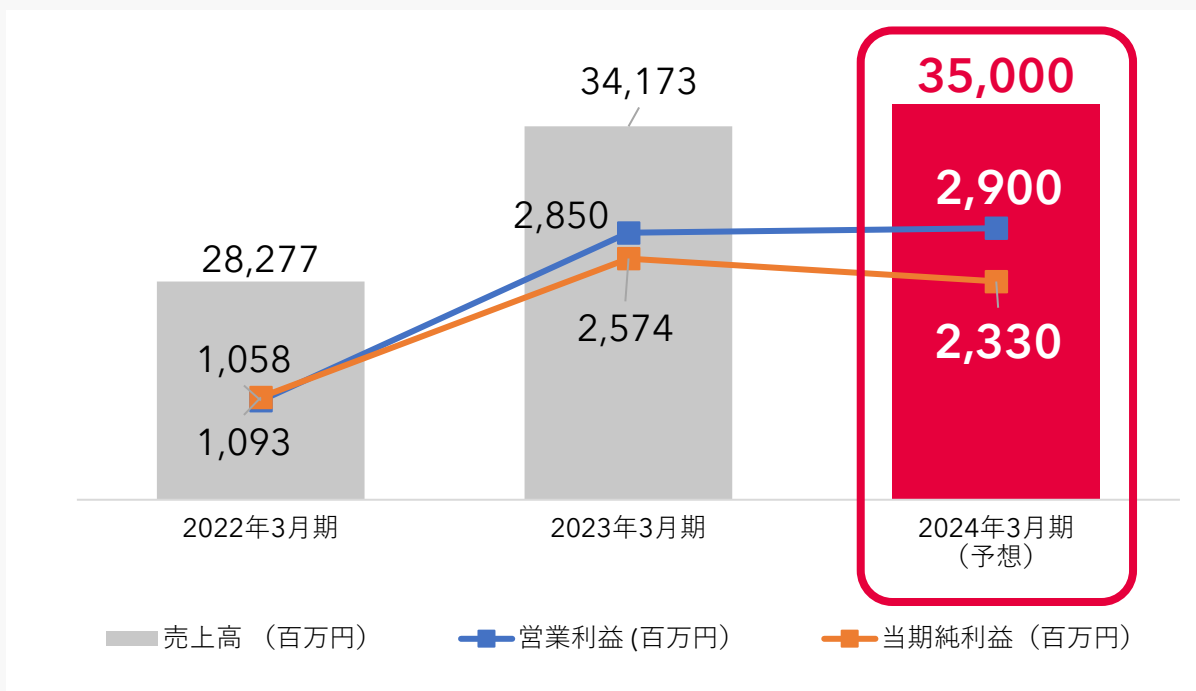
2. 今後の見通し

- 2024年3月期 業績予想
- 2024年3月期 配当予想

2024年3月期 業績予想

2024年3月期 連結業績予想

売上高 350 億円	営業利益 29.0 億円	営業利益率 8.3%	
親会社株主に帰属する当期純利益 23.3 億円		当期利益率 6.7%	
投資計画	設備投資	減価償却費	試験研究費
	22.65億円	12.49億円	38.56億円
2023年3月期実績値	8.47億円	8.55億円	38.62億円



2024年3月期 業績予想

●売上高

半導体等主要電子部品の供給不足は、徐々に改善の兆しが見え始めたものの、コロナ禍の影響が完全には、払拭されないという見込。

加え、原材料のコストアップやコストプッシュ型のインフレも想定されるが、全世界的な危機管理意識の高まりにより、無線機需要は底堅いものとみている。

●設備投資

2021年から取り組んでいる5G関連機器の製品化、和歌山アイコム自動化・スマートファクトリー化を推進。

●想定為替レート

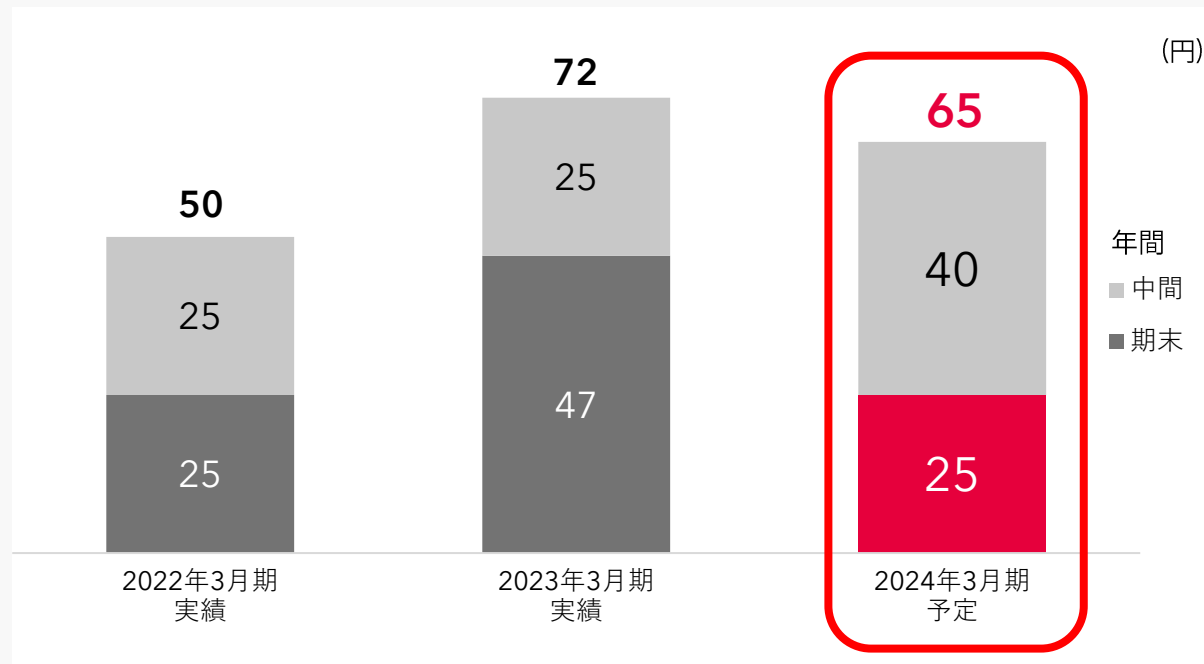
為替レート	2024年3月期 通期想定※	2023年3月期 実績値
USD	128.00円	134.29円
EURO	138.00円	139.96円

2024年3月期 配当予想

	中間	期末	年間	配当性向
2022年3月期 実績	25円	25円	50円	65.6%
2023年3月期 実績	25円	47円	72円	40.1%
2024年3月期 予定	25円	40円	65円	40.0%

※減配の予定

ただし、株主還元方針に基づき、1株当たり年間配当額50円あるいは連結配当性向40%のいずれか高い方を下限とすることを継続。尚、予想以上の利益を実現した場合、別途、さらなる株主への利益還元も適宜検討。



3. 中期経営計画2026

- 中期経営計画2026の概要
- サステナビリティ戦略
- 3カ年計画
- 事業環境認識と中期経営計画2026のテーマ
- 経営基盤の強化策
- 長期ビジョン

中期経営計画2026の概要

■ 事業戦略

① コアビジネスの強化

- 高周波の新たな領域や新プラットフォームの展開
- 衛星無線分野に「アイコムしかできない」製品展開
- 異なるプロトコル間の通信ノウハウを他の無線カテゴリーへ展開

② 新たなビジネスモデルへの挑戦

- 回線収入・ストックビジネスの海外市場拡大
- 主要無線カテゴリーの技術を武器にビジネスのシナジー効果が得られる戦略的なパートナーシップを構築

③ 100年企業を目指したサステナブル経営

- サステナブル経営を基にしたバリュー・プロポジションの更なる向上
- 持続的な成長に向けた取り組み（ESG）
- ロボット生産やスマートファクトリー化によるモノづくりの改革と進化を継続

中期経営計画2026の概要

■ 主要数値目標

健全な事業戦略及び経営のうえ、企業のファンダメンタルズの向上・適正化、ESGの取り組みを新たな目標として設定。

	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
売上高	350億円	365億円	380億円
営業利益	30億円	34億円	38億円
配当方針※	1株当たり年間配当額50円あるいは連結配当性向40%のいずれか高い方を下限とする		

■ 財務目標

常に安定した株主還元を維持したうえ、目標としている事業拡大に沿った還元拡大及び投資計画の実現を目指す。

- グループの強固な財務基盤をより効果的に利用（利益成長に注力）
- 更なる技術進歩への投資（人的投資含む）
- コアビジネス以外の戦略的な事業拡大
- グループの働く環境改善

アイコムを100年企業へ

中期経営計画2023

(2021年3月期-2023年3月期)

- コロナ禍での緊急対策
- 収益構造の変革
- 無線機以外の異業種へ参入
- モノづくりの事業化

中期経営計画2026

(2024年3月期-2026年3月期)

100年企業への足固め

※2024年：60周年

- 高利益を創出する会社基盤の強化
- 既存製品の性能向上と機能拡張
- 「アイコムしかできない」製品供給
- 無線とシステムソリューションの総合プロデュース企業へ
- バリュー・プロポジションの向上

100年企業への成長

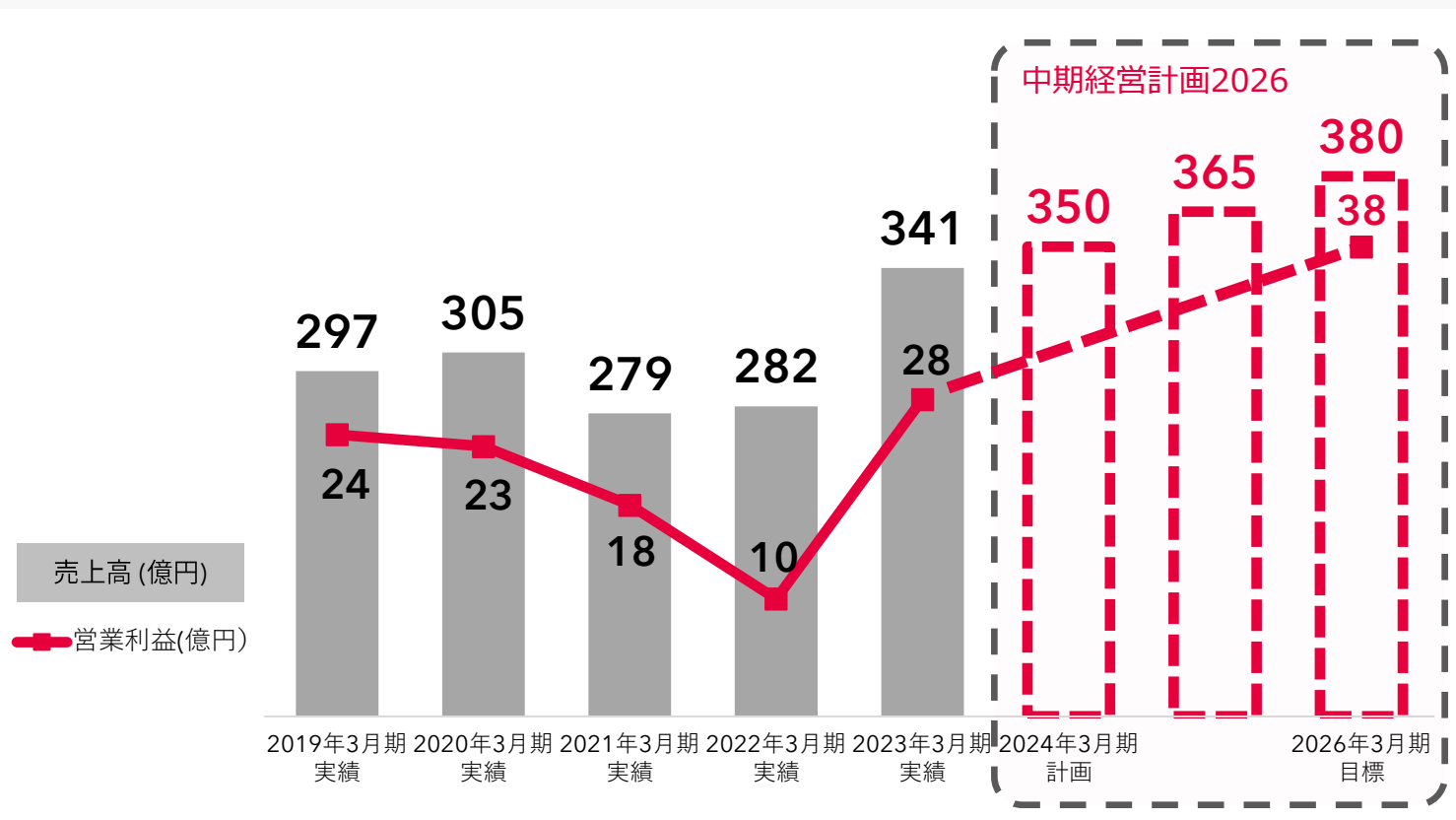
(2027年3月期～)

- 収益構造の更なる革新
- 電波以外の無線技術の獲得
- 映像、AI、センシング技術との融合
- 販売ビジネスからシステムソリューション提供へ
- 企業価値の持続的な向上

3カ年計画

■ 2026年3月期の目標

2026年3月期目標		
売上高	営業利益	営業利益率
380億円	38億円	10%



利益成長の施策

- 為替長期予約の導入によるリスク軽減
- 生産操業度UPによる固定費負担比率の軽減 (7万台※⇒10万台へ) と自動化の推進
※2023年3月期の月別平均生産台数
- 取引先※との更なる連携強化による製品の安定供給と売上UP
※仕入先、販売先共
- ストックビジネスの更なる拡大と新規ビジネスの創出

事業環境認識と中期経営計画2026のテーマ

機会

- 無線機市場のデジタル化によるリプレイスと共に、LTE置き換の更なる加速とIP技術の融合
- AI、IoT分野での新技術やビジネスモデルによる既存ビジネスからの置換需要や新たな需要喚起
何でも「ワイヤレス」の時代へ
- サステナビリティへの関心の増加（社会課題への企業の取り組みを重要視する動き）

リスク

- コロナ感染症終息後の新しい生活スタイルによるビジネスへの影響及び無線機市場の再編
（プレイヤーの存続有無）
- 半導体等生産材の供給リスクの長期化
- グローバルでの地政学的リスクの拡大
- 米中貿易摩擦による世界経済への影響

テーマ

- 100年企業へ向けて、利益を創出する企業基盤の強化に注力
- 市場変化に対応し、安定した収益をあげる企業構造の強化
- 無線機事業のみならず、各種無線技術を取り込んだ総合ソリューションを提供する企業へ
- 戦略的M&Aや業務提携によるバリュー・プロポジションの更なる向上

経営基盤の強化策/コアビジネスの強化

「新プラットフォームや新技術投入により既存製品の性能向上と機能拡充を目指す」

■ アマチュア無線

- デジタル無線技術で得られた技術ノウハウの活用・他カテゴリ展開
- ユーザビリティを向上させ、直観的な操作/必要な機能の拡充
- 製品ラインナップの再構築

■ 陸上業務用無線

- 無線機の小型化/低消費電力化に適した構造/デバイスの改良→環境配慮
- 無線機で映像を取り扱うための機能開発
- 新プラットフォーム導入による開発環境共通化と開発スピード向上
- 暗号化技術の更なる進化
- オプション品を含め、無線機をソリューションで提供

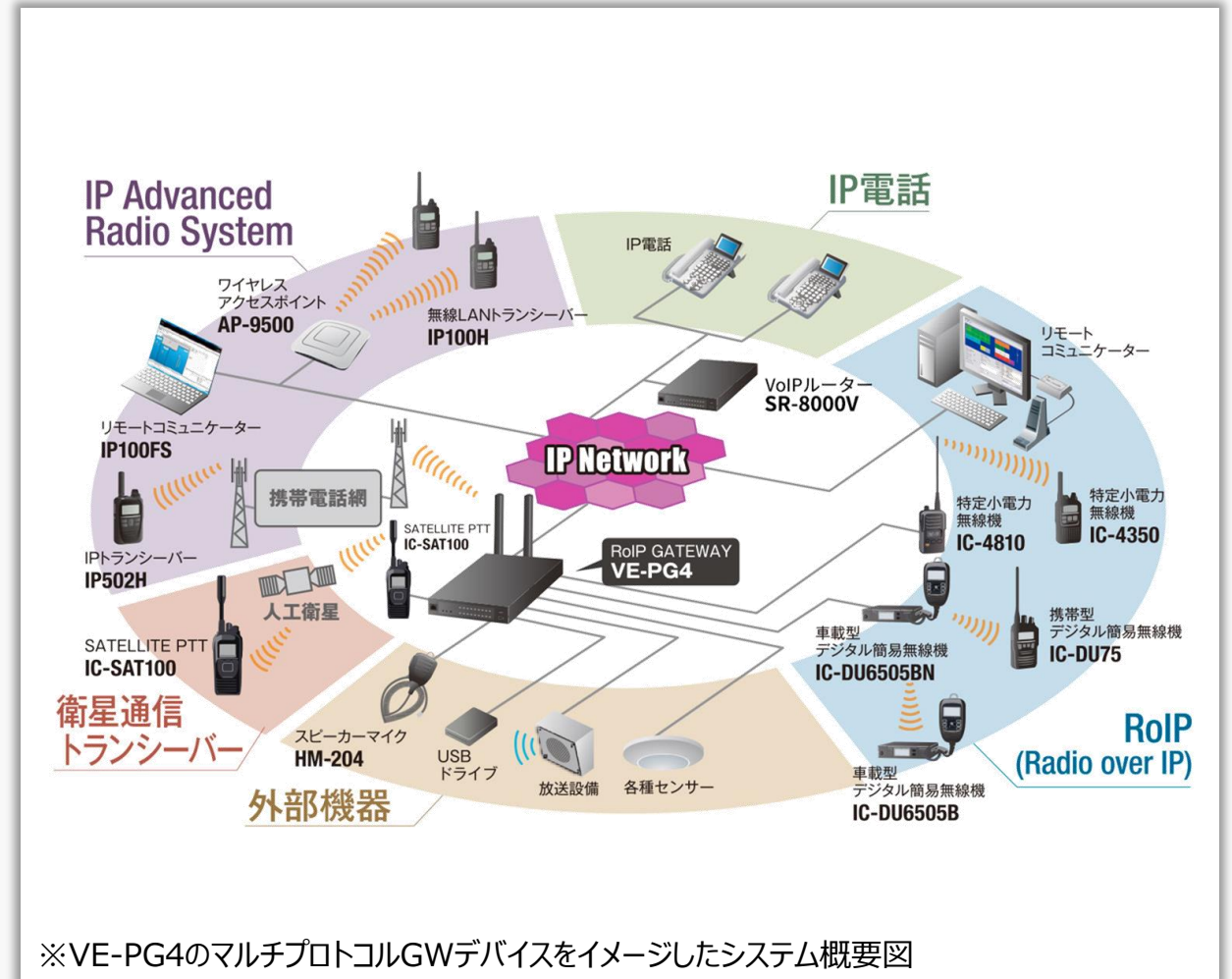
経営基盤の強化策/コアビジネスの強化

■ ネットワーク

- 多様な通信機器をシームレスに接続する
IoTゲートウェイの更なる発展
- 信号処理技術を活用した医療、介護や店舗など、
幅広い顧客での利便性向上
- 5G対応製品の市場投入による既存製品の
次世代展開
- クラウド環境と連携した製品の開発/
固定ネットワークへの無線技術導入推進

■ ユーザー目線の開発

- CX（カスタマーエクスペリエンス）による
フィードバックを取り入れることでの製品力強化



経営基盤の強化策/新規ビジネスの創出

「狭帯域無線技術を活かしつつ、メディア拡張を加え、無線の総合プロデュース企業を目指す」

■ AIエンジンコア実現推進

- ・ 汎用CPUで処理可能なAI機能を実現、映像分析／音声処理／信号処理への活用

■ 映像処理機能及び映像デバイスの開発推進

- ・ 映像処理機能の充実により無線機へ映像伝送機能を実装（データ圧縮・伸張技術／カメラデバイス等）

■ 各種センサー技術及びIoTデバイス他の無線応用製品の開発推進

- ・ 無線技術を活用したスマートデバイスを開発、ヘルスケア・スマートホーム・スマートファクトリ市場への提案
- ・ 見守りデバイスや忘れ物タグ、屋内位置情報システムなどの無線応用製品の開発
- ・ 無線機制御部のSoC化とRF-IC開発



※当社独自開発のSoC。

経営基盤の強化策/新規ビジネスの創出

■ 回線提供ビジネスの拡大とシステム提案支援ビジネス部門の設立

- 通信回線プロバイダーとの協業による海外回線提供ビジネスの拡充
- システムインテグレーション、システム提案ビジネスを強化

■ 新たな通信方式の探求

- ミリ波帯の電波に加え、光や音波を使った通信方式の開発

■ 伝統的なRF無線技術の組み合わせによる新規市場開拓

- 各種ハイブリッド無線機の投入や新たなプロトコル（デジタル化など）への展開



※IP700/IP730DシリーズRF+LTEハイブリッド製品

経営基盤の強化策/3年間の投資計画

「サステナブル経営を基にしたバリュー・プロポジションの更なる向上」

中期経営計画 2026 3年間の投資計画

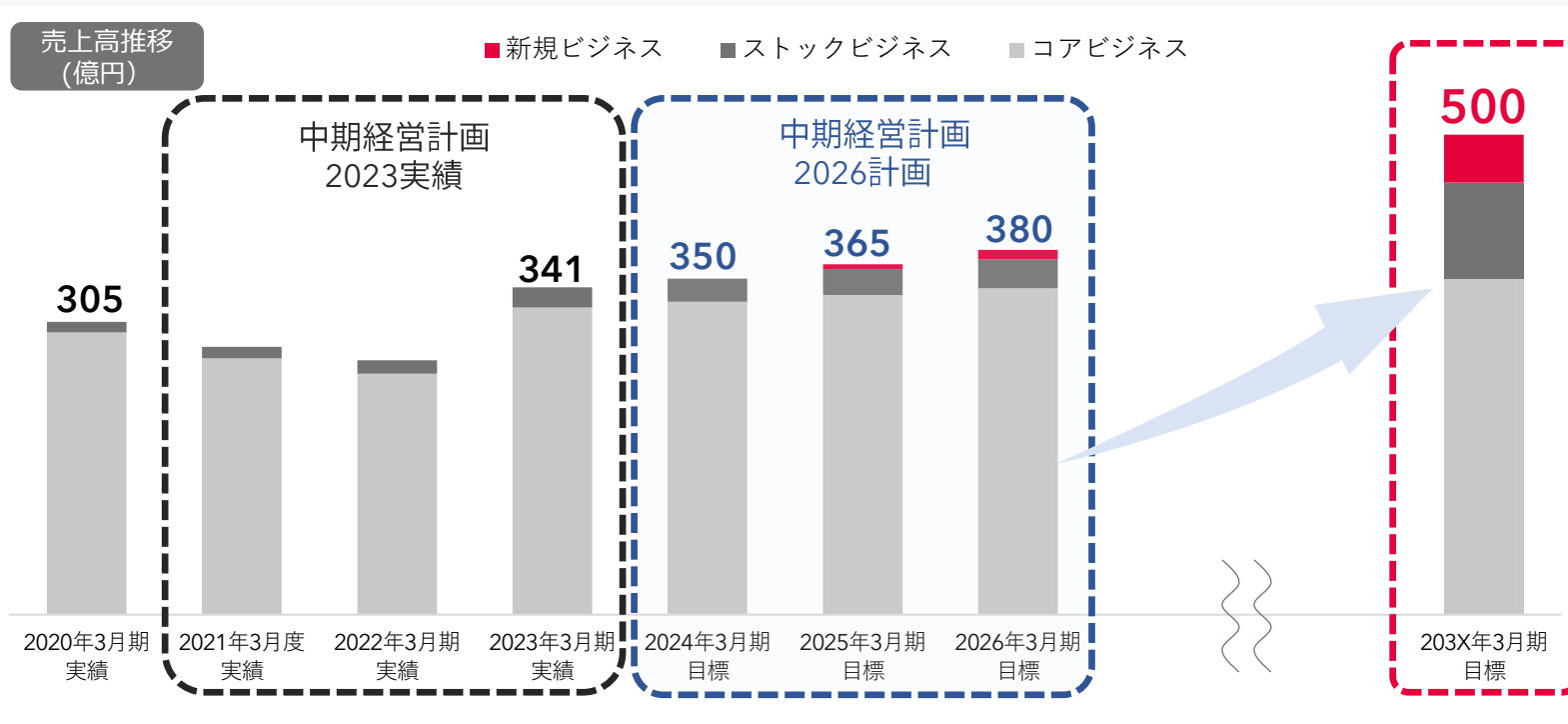
		計画	施策
設備投資	設計環境の再整備/ 働く環境の再整備	35～40億円	<ul style="list-style-type: none"> 開発環境の再整備及び集約/本社地域ビル(設計拠点や社員寮など)や営業所に使用している不動産の老朽化に伴う建替・物件購入 現地法人の自社ビル所有の検討
研究開発	新規技術取得のための 取り組み	50億円	<ul style="list-style-type: none"> 無線機に特化した映像技術、AI技術、次世代SoC/RF-ICの開発への取り組み 5GやIP無線システムの周辺ソリューションへの取り組み スマートファクトリー化(5G導入)への取り組み 自社で発明・開発している通信プロトコルの世界標準化への取り組み
	新規ビジネス	10億円	<ul style="list-style-type: none"> 新規参入を目的とした製品開発への取り組み 戦略的M&Aや外部パートナーとの業務提携への取り組み 産学共同など研究開発活動促進への取り組み
その他	人材確保・育成等	5億円	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業実現に向けた人材確保への取り組み 海外での技術対応、各種業界団体の専門家、特定市場の専門営業などの特化した人材確保への取り組み 社員の階層別トレーニング、次世代リーダー育成など企業基盤の継続的発展への取り組み

長期ビジョン

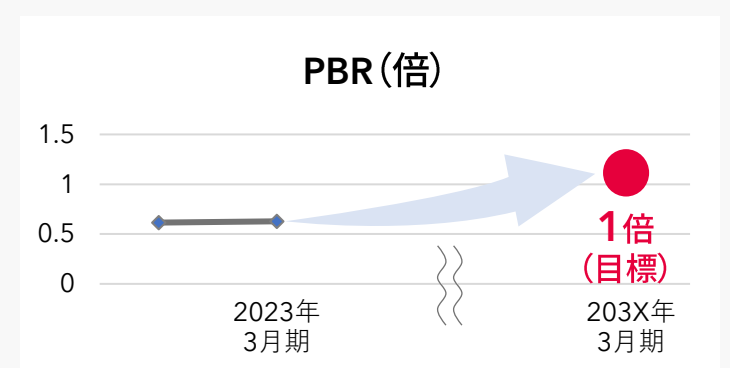
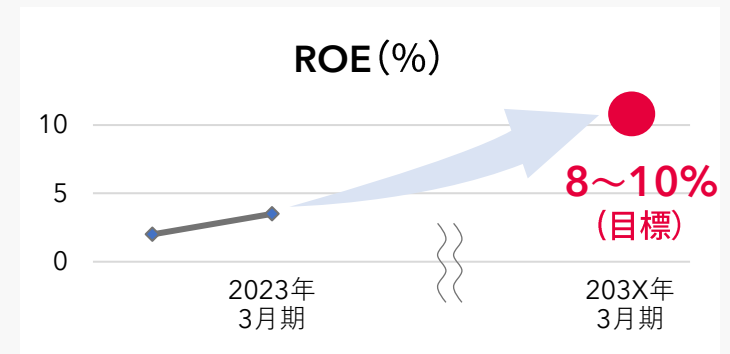
■ 無線通信技術で社会を支え、持続的に発展するメーカーへ

- ストックビジネスを拡大し収益構造を変革
- 無線機以外の異業種への参入
- モノづくりそのものを事業化

→5G導入・スマートファクトリー化のシステムインテグレーターに



10年以内に
連結売上高
500億円達成
ROE : **8~10%**へ
PBR : **1倍 (目標)**へ



将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている記述の内、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。

これら将来見通しに関する記述は、既知以外に未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が含まれており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本資料発行時点のものであり、その後の経済情勢や市場環境の変化によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、

- (1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動
- (2) 国内外の主要市場における貿易規制・法令等の変動
- (3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動
- (4) 資本市場における相場の大幅な変動
- (5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動

などがあります。

ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。



How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

<お問い合わせ先>
アイコム株式会社 社長室
電話 : 06-6793-5301
Email : BMD@icom.co.jp
URL : <https://www.icom.co.jp/>